※令和４年度以降入学生用

学校番号	206

令和５年度　芸術科（書道）

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	書道Ⅱ（東京書籍）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書は自身の意図や感動を文字という素材を通して自己表現する芸術です。書１の学習をもとに、歴史、文化、表現方法など幅広い観点から書を学び、更に表現力と鑑賞力を高め創作や鑑賞に生かしましょう。
・時代、書風など多様な観点から書の教材に触れることにより、生涯にわたり書を愛好する心情を育みましょう。
・制作記録や相互鑑賞評価で制作者の心情をくみ取り、更に自作の表現の幅を広げ、高めましょう。

２　学習の到達目標

・書の幅広い活動や伝統を学び、表現と鑑賞に生かしていく。
・表現技法や紙面構成、用具・用材の工夫など新たな視点をもって創造的に表現することができるようにする。
・主体的に書の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育み、書の美を味わう感性を高める。
・国語や世界史との関連を図り、書への関心・興味を高め書の伝統と文化への理解を深める。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	書の伝統の表現方法や形式を理解し、効果的に表現する工夫をしているか。用具・用材の特性を生かして表現方法を工夫しているか。他教科との関連を図ることが出来て書への興味・関心を高められているかを評価します。	書独自の美を感じ取り、自己の内面を見つめて創造的に表現できているか。自分独自の発想を大切にして深めているか。新たな気付きや視点を書の表現に組み入れながら制作活動に取り組めているかを評価します。	主体的に書の創造活動に取り組んでいるか。作品の相互鑑賞・自作品の振り返りができているか。古典教材や様々な芸術作品を鑑賞することにより芸術作品に興味を持っているかを評価します。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)

※令和４年度以降入学生用

1 学期	漢字の書	【篆書】【鑑賞】 1. 漢字五体の変遷と特徴 漢字五体の成立と変遷、特徴、書風など時代背景を踏まえながら学ぶ。 2. 甲骨文の成立と変遷、特徴を学ぶ。 ・甲骨文の臨書学習を通して鋭く直線的な線質と図象的な形を学習する。 ・臨書学習をして亀甲図形に創作作品を制作して押印する。 ・作品鑑賞 制作記録をもとに、作品を鑑賞し、作者の表現意図や作品に込めた思いを共有する 3. 金文の成立と変遷、特徴を学ぶ ＊大盂鼎 臨書から曲線的な線質、逆筆蔵法、紡錘形の線質、左右相称の形を学ぶ。 ・青銅器の種類と役割を理解し、金文作品を制作して押印する。 ・作品鑑賞 制作記録をもとに、作品を鑑賞し、作者の表現意図や作品に込めた思いを共有する 4.小篆の成立と変遷、特徴を学ぶ。 ＊篆書庾信讃四屏 ・臨書から小篆の逆筆蔵法、左右相称、縦長な字形を学習する。 ・自選の語句を小篆の特徴を生かして表現する。 ・作品鑑賞 制作記録をもとに、作品を鑑賞し、作者の表現意図や作品に込めた思いを共有する。 【隷書】【鑑賞】 1.隷書の成立と変遷、種類を学ぶ 隷書の用筆、字形、波磔を練習する。 2.礼器碑 ・臨書学習を通じて隷書の美を理解する。 ・古典学習を元に情景を共有できる漢詩を選択して創作作品制作し、落款、押印を工夫して作品に仕上げる。 3.鑑賞 制作記録をもとに、作品を鑑賞し、作者の表現意図や作品に込めた思いを共有する。	a:(知識) 漢字五体の成立と変遷、特徴、特に篆書の時代的背景が理解できているか。 （技能） 篆書の逆筆蔵法ができているか。 b:（思考・判断・表現） ・篆書の臨書学習を基に自分自身の発想で作品制作ができているか。 ・紙面に対して構成、墨量、墨色を工夫しているか。 ・落款、押印を作品に効果的に表現できているか。 ・表現意図を明確にできているか。 C：（主体的に取り組む態度） ・自己を見つめ、語句選びに試行錯誤を繰り返して題材を決められたか ・題材にあう表現方法を工夫したか。 ・相互鑑賞や制作記録で主体的に意見交換や鑑賞に取り組むことができたか。 ・作品鑑賞から他の生徒作品の良さを感じ取り、表現への理解を深めることができているか。 a:(知識) ・歴史的背景から隷書の成立と変遷を理解することが出来たか。 （技能） ・隷書の特徴の逆筆蔵法、扁平な形、波磔が習得できたか。 b:(思考・判断・表現) ・漢詩の内容を解釈し、作品制作できたか。 ・紙面構成や墨量・墨色を工夫して制作できたか。 ・落款、押印を工夫しているか。 c:（主体的に取り組む態度） ・漢詩の意味を理解し、隷書で表現できているか。 ・相互鑑賞や制作記録で主体的に意見交換や鑑賞に取り組むことができたか	提出作品 取り組み状況 提出作品 取り組み状況 取り組み状況 取り組み状況 制作作品 取り組み状況 取り組み状況 提出作品 取り組み状況 提出作品 取り組み状況 提出作品	取り組み状況 提出作品 取り組み状況 取り組み状況 取り組み状況 取り組み状況 提出作品 取り組み状況 制作作品	ト 取り組み状況 取り組み状況 制作記録 鑑賞記録 制作記録 制作記録 鑑賞記録 制作記録 鑑賞記録

※令和４年度以降入学生用

2 学期	漢字の書	【草書】【鑑賞】 1. 草書の特徴 ・篆書、隷書、行書で学習した用筆、運筆、字形の取り方を元に、より簡素化された芸術的で多様な表現を味わう。 2. 書譜 ・運筆の緩急、筆圧の強弱、筆脈や変化に富んだおおらかな字形、線の太細による立体感を理解し学習する。 3. 自叙帖 ・運筆の自在さ、連綿、文字の勢いや変化の妙を理解し学習する。 4. 漢字一字創作 ・今の想いや感動を草書体で表現する。 ・制作途中で相互鑑賞を行い、意見交換を参考に自分の創作意図に近づくように工夫を加えていく。 5. 鑑賞 お互いの完成作品の制作記録をもとに作者の心情や表現の工夫などについて共有する。	a:(知識) ・草書の成立と変遷や特徴を理解したか。 ・芸術的で多様な表現を味わうことができたか。 （技能） ・草書の用筆、運筆、字形の取り方について理解し、表現方法を工夫できたか。 b:（思考・判断・表現） ・草書の特徴を理解し、心の動きと体の動きを一体化できるようにイメージできているか。 ・文字から得たイメージや文字に込めた想いを独自の発想で表現できているか。 ・草書の用筆、運筆、構成、字形、表現のイメージなど試行錯誤を繰り返すことにより、創造的な表現に結びつけることができたか。 C:（自主的に取り組む態度） ・他の生徒の作品から受ける良さを感じ取り、表現への理解を深めることができているか。 ・草書の用筆、運筆、構成、字形、表現のイメージなど試行錯誤を繰り返すことにより、創造的な表現に結びつけられたか。 ・制作記録や鑑賞記録で主体性をもって意見交換や鑑賞に取り組むことができたか。	取り組み状況 提出作品 取り組み状況 提出作品 取り組み状況 提出作品 制作途中作品 取り組み状況	提出作品	取り組み状況 取り組み状況 制作記録 鑑賞記録 制作記録 鑑賞記録

※令和４年度以降入学生用

	仮名の書・年賀状作成	【仮名】【鑑賞】 1.変体仮名 高野切第一種系統の変体仮名集字を学習する。 2.連綿 ・連綿線で表現される流動美と豊かな表現を学習する。 3.年賀状作成 ・年賀状の意義や形式を理解し、仮名の用筆、用法を工夫して独自の年賀状を作成する。 4. 鑑賞 お互いの完成作品を発表しあい、作者の心情や表現の工夫などについて共有する。	a:(知識) ・変体仮名の成立と変遷について理解できたか。 ・変体仮名の効果的な使い方を理解できたか。 ・連綿線の効果的な使い方が理解できたか。 （技能） ・変体仮名の用筆、用法、字形を習得できたか。 ・連綿線による優美な運筆と自然な墨継ぎが習得できたか。 b:（思考・判断・表現） ・はがきの書式を理解し、年賀状を送る相手に気持ちが伝わるように書き方、用具、用材を工夫して表現しているか。 ・独自の表現方法で独創的に表現しているか。 c:　（自主的に取り組む態度） ・小筆の特徴を生かした筆の使い方ができているか。 ・用途を考えて創造的な表現に結びつけられたか。 （鑑賞） ・鑑賞記録で主体性をもって意見交換や鑑賞に取り組むことができたか。 ・他の生徒の作品から見える良さを感じ取り表現への理解を深めることができているか	取り組み状況 提出作品 取り組み状況 提出作品 取り組み状況 提出作品	取り組み状況 提出作品 取り組み状況 提出作品 取り組み状況 提出作品	取り組み状況 取り組み状況 取り組み状況 提出作品 制作記録 鑑賞記録

※令和４年度以降入学生用

3 学期	現代風絵巻物	【漢字仮名交じりの書】【鑑賞】 ・漢字仮名交じりの書の変遷について理解する。 ・近現代作品を鑑賞して現代の日本語表現を生かす表現を工夫する。 1.　構成の工夫 表現したい題材を様々な構成で工夫を試みる。 2. 表情の工夫 発想や構想に応じて様々な材料や用具、用材、墨量、墨色の特性を生かして表現方法を創意工夫し、創造的に表現す。 3.現代絵巻物作成 ・制作記録用紙に制作テーマのイメージや表現方法の工夫を練る。 ・表現意図に合わせた構成や表情の工夫を重ね、自分の想いや感動を表現する。 ・文字の表現に合わせた彩色やコラージュを加える。 4. 鑑賞 お互いの完成作品を制作記録をもとに鑑賞しあい、作者の心情や表現の工夫などについて共有し、相互評価する。	a:(知識) ・漢字仮名交じりの書の変遷について理解したか。 ・現代の日本語表現を生かす表現について理解したか。 （技能） 表現意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに表現方法を工夫できているか。 b:（思考・判断・表現） ・語句等から感じ取ったことや題材に込める自分の想いを巻物の起承転結を考えて表現できているか。 ・彩色などが文字やイメージを生かすように表現できているか。 c:　（自主的に取り組む態度） ・題材を幅広く選び、創造的な表現に結びつけられたか。 ・鑑賞や制作記録で主体性をもって意見交換や鑑賞に取り組むことができたか。 （鑑賞） ・他の生徒の作品の良さを感じ取り、表現への理解を深めることができているか。 ・自作を鑑賞して作品に対する思いやイメージを表現できているか。	取り組み状況 提出作品 取り組み状況 提出作品 取り組み状況 提出作品 制作途中作品	制作途中作品 提出作品	制作記録 制作途中作品 制作記録 鑑賞記録

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度